

人と牛が共生する 美方地域の 伝統的但馬牛飼育システム



世界農業遺産
兵庫美方地域

世界農業遺産
令和5年7月認定

日本農業遺産
平成31年2月認定

兵庫県兵庫美方地域

全国に先駆けて牛籍簿を整備し、地域内の血統にこだわった和牛改良を行うことで、独自の遺伝資源が保全されてきました。但馬牛の飼養は、地域の草原や棚田の維持、農村文化の継承にも貢献しています。

山深い地域



山深い地形の美方地域は、昼夜の寒暖差が大きく、夜露が頻繁に発生するため、夏でも良質な草が育ちます。

牛は家族



但馬牛を家族のように大切にしてきました。現在も変わらず1頭1頭大切に飼育されています。

人と牛が共生する 美方地域の伝統的 但馬牛飼育システム

日本・兵庫 美方地域



優良牛保存システム



遺伝の法則を知らなかった時代から、良い母牛がよい娘牛を生むことに着目し「蔓牛(つるうし)」という血統集団が谷ごとに作られました。明治31年には各村役場に牛の戸籍である「牛籍簿」が作られました。これは和牛登録システムの元祖となっています。

世界・日本農業遺産認定による効果

但馬牛の生産振興

但馬牛を中心とする生業の維持発展

- 子牛生産数及び子牛市場上場頭数を増加させ、「神戸ビーフ(但馬牛)」の供給量を増加し、但馬牛のブランド力を更に向上

- 繁殖牛頭数 : 2,218頭(R2) → 2,229頭(R4)
- 肥育牛頭数 : 934頭(R2) → 1,075頭(R4)
- 認定農業者数: 33名(R4) → 33名(R5)

地産地消

- 新たな肥育農家数: 2名(R4) → 2名(R5)

遺伝的多様性の維持、希少系統の維持

- 近交係数: 25.7%(R4) → 26.0%(R5)
- 熊波系育種基礎雌牛認定頭数: 87頭(R2) → 110頭(R5)



但馬牛の放牧

次世代への技術継承

次の世代へと受け継がれていく持続的な地域のシステム

- 世界的に特色のある遺伝資源を守り、地域の農地、農村環境、草原、多種多様な生物資源を保全

- 研修会の開催回数:
3回(R4) → 5回(R5)
- 子牛品評会、共進会の開催回数:
4回(R4) → 4回(R5)



但馬牛の測定

観光

但馬牛への理解の醸成と交流の推進

- 但馬牛誕生の歴史や但馬牛文化を広く発信し、地域での価値観を向上させるとともに、精肉販売やレストランでのメニュー提供により但馬牛の魅力を発信

- 但馬牧場公園入場者数: 89,794人(R4) → 92,377人(R5)
- 道の駅利用者数: 157,440人(R4) → 158,370人(R5)
- 観光入込数: 1,622千人(R2) → 1,863千人(R5)



但馬牛の調理



但馬ビーフ(JAたじま提供)

環境創造型農業の普及

「人と環境にやさしい農業」の普及

- 地球環境や生物多様性に配慮した「人と環境にやさしい農業」を普及し、安全で高品質な農産物を生産する環境創造型農業を推進し、良質な食料の持続的な生産を推進

栽培面積

- かこのほほえみ米: 4.5ha(R2) → 6.1ha(R5)
- みかた棚田米: 155.7ha(R2) → 157.0ha(R5)
- コウノトリ育むお米: 8.5ha(R2) → 8.7ha(R4)



堆肥散布



コウノトリが飛来した田
(JAたじま提供)